

田邊浩文（著）

効果がみえる中枢神経疾患の再構築 アプローチ—タナベセラピー—

山 本 伸 一

（山梨リハビリテーション病院，作業療法士）



中枢神経疾患の麻痺側肢に対するアプローチは，昨今はあたり前になっているだろう．しかし私が就職した約 30 年前，当疾患は健側使用にて自立支援することが主流であったと思う．OT もそれがあたり前のように考えていた．麻痺側上肢へ介入する，チャレンジすることなんて無駄だとおっしゃる方がいたことは現実であった．当時はそれに反感をもち，患者の希望に沿って，麻痺側肢へ治療するセラピストは少なかったかもしれない．

転機が訪れたのは，回復期リハビリテーション病棟が誕生した 2000 年（平成 12 年）である．対象者の訴えは「麻痺側上肢を何とかしてほしい」であった．また，同時期に Nudo らの論文（J Neurosci 16：785-807，1996）が発表された．「脳損傷による麻痺側上肢は改善する」ことが証明された．それからというもの，従来から存在する PNF やボバース，認知神経リハビリテーション等，そして本書に紹介されている CI セラ

ピーや川平法，ボトックス，経頭蓋磁気刺激法（transcranial magnetic stimulation）の普及等，目覚ましい発展を遂げている．

本書では，CI セラピーを基に田邊浩文氏のオリジナルとして「タナベセラピー」を紹介．独自に開発された徒手のアプローチと既存する行動変容アプローチをパッケージした新しい手法である．第 1 章では，脳の可塑性についてわかりやすく説明している．そのうえでボトムアップおよびトップダウン・アプローチから行動変容ステージまでを細かく解説している．第 2 章では，プログラムの概要やその手順を詳説する．面接から実施内容，介入後のモニタリングまでフォローしている．第 3，4 章は，具体的アプローチの解説だ．非常にわかりやすい．本書のところどころでは，「Clinical Hint」として，臨床での悩み相談・解説を記載している．たとえば，「なぜ，片麻痺者は円背姿勢をとるのか？」，「促通法のポイント①—抵抗の方向」等，30 項目以上．

なんと嬉しい．現場への気配りがよくわかる．

執筆者の田邊氏は，長年のお付き合いになる．昨年度には，第 49 回日本作業療法学会のシンポジウム「機能回復への挑戦『麻痺』に挑む～脳卒中上肢麻痺への積極的アプローチ～」で一緒にさせていただいた．田邊氏は「脳卒中後の生活場面で麻痺肢の使用を促す CI セラピー」をご講演された．鹿児島大学病院の野間知一氏（促通反復療法），そして私（ボバースコンセプト/活動分析アプローチ）の 3 名はお互いに興奮したのを記憶している．それぞれの想いは一緒であったから．

私たちは，対象者と共に，麻痺側も含めて，障がい立ち向かう．作業療法士だからできること．未来を創ろう．

〔B5 判 136 頁 3,400 円＋税〕
ヒューマン・プレス 刊
☎ 03-5615-8451